

縮尺 20 万分の 1

# 土地分類図付属資料

北海道Ⅱ（十勝）

昭和 51 年

国土庁土地局



## 縮尺 20 万分の 1 土地分類図付属資料

### 目 次

利用者のために

#### A 土地条件等の概要の部

1 地形区分とその性状等の概要	1
2 表層地質の分布とその性状等の概要	3
3 土壌の分布とその性状及び生産力可能性等の概要	5
4 土地利用可能性分級等の概要	9
4-1 土地利用現況の概要	9
4-2 土地利用可能性分級の地域別概要	10

#### B 統計の部

1 土地利用現況	11
1-1 土地利用現況市町村別内訳	14
2 自然的土地条件	17
2-1 傾斜区分別面積市町村別内訳	17
2-2 標高区分別面積市町村別内訳	18
2-3 地形区分別面積市町村別内訳	20
2-4 表層地質分布面積市町村別内訳	22
2-5 土壌統群分布面積市町村別内訳	22
3 土地利用可能性分級	24
3-1 土地利用可能性分級別面積市町村別内訳	24
3-2 土地利用可能性分級と自然条件との関連	25
3-2-1 土地利用可能性分級と地形区分との関連	25
3-2-2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連	25
3-2-3 土地利用可能性分級と標高区分との関連	25
3-2-4 土地利用可能性分級と土壌生産力可能性との関連	26
3-3 土地利用可能性分級別主要地域の概要	27
3-4 土地利用可能性分級別市町村別内訳	28



## 利用者のために

### 1. 編集方針

この付属資料は、縮尺20万分の1土地分類図についての概要説明と、面積統計とに区分されるが、面積統計については、以下の要領により作成したものである。

例えば、2-1表「傾斜区分別面積市町村別内訳」は、「傾斜区分図」(オーバーレイ)を市町村の行政区画単位に面積測定して作成したものであり、3-2-1表「土地利用可能性分級と地形区分との関連」については、「土地利用可能性分級図」及び「地形分類図」を用い、前者の類地パターンと、後者の地形区分のパターンとを重ね合わせて面積を測定し、両者の面積的関係を把握し作成したものである。

但し、1-1表「土地利用現況市町村別内訳」及び1-2表「D・I・Dおおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳」については、北海道における各種統計資料等を調整して作成したものである。

なお、縮尺20万分の1土地分類図の各図幅と、付属資料の統計表との関係を示すと次表のとおりである。

土地分類図等の名称 統計表の名称	1 地 形 分 類 図	2 起 伏 量 ・ 谷 密 度 図	3 傾 斜 区 分 図	4 表 層 地 質 分 類 図 ( 平 面 的 分 類 図 )	5 表 層 地 質 分 類 図 ( 垂 直 的 分 類 図 )	6 土 壤 分 類 図	7 土 性 等 生 産 力 分 類 図	8 土 地 利 用 可 能 性 分 級 図 ( 土 地 利 用 可 能 性 現 況 分 級 図 )	9 土 地 利 用 可 能 性 分 級 図	10 標 高 区 分 図	11 道 統 計 資 料 等
1-1 土地利用現況市町村別内訳											○
1-2 D・I・Dおおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳											○
2-1 傾斜区分別面積市町村別内訳			○								
2-2 標高区分別面積市町村別内訳										○	
2-3 地形区分別面積市町村別内訳	○										
2-4 表層地質分布面積市町村別内訳				○							
2-5 土壌統群分布面積市町村別内訳						○					
3-1 土地利用可能性分級別面積市町村別内訳									○		
3-2-1 土地利用可能性分級と地形区分との関連	○								○		
3-2-2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連			○						○		
3-2-3 土地利用可能性分級と標高区分との関連									○	○	
3-2-4 土地利用可能性分級と土壌生産力可能性等級区分との関連							○		○		
3-3 土地利用可能性分級別主要地域の概要	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3-4 土地利用可能性分級別市町村別内訳									○		○

## II 利用上の留意事項

土地分類図の各図から測定された項目別パターンの面積値は、各図の図示表現の技術的な制約、即ち縮尺20万分の1土地分類図の場合には、最小図示単位として1Km<sup>2</sup>(図上で2mm)を限度としたため、実在の面積とは一致しない場合もあると考えられる。特に、パターンの小さい性格をもつ分類項目にあっては、やゝ少な目に数値が出る傾向がある。

したがって、この種の面積については、項目毎の絶対値を使用するのではなく、概括的な把握、ないし項目の構成比率等の利用に配慮されたい。

## III 表中の記号について

「0」は数値が掲載単位に満たないもの

「-」は該当事実のないもの

「 」(空白)は編集時において資料がなく不明のもの

## IV 調査機関一覧

調査項目	機 関 名	所 在 地
総括調整	北海道開発調整部	札幌市中央区北3条西6丁目 〒060-91 TEL 011-231-4111(内線2432)
地形分類	北海道教育大学 札幌分校(奈良部理) 函館分校(瀬川秀良) 岩見沢分校(野川 潔) 旭川分校(小杉健三)	札幌市中央区南24条西13丁目 岩見沢市緑ヶ丘 〒068 TEL 01262-2-1470
表層地質	北海道立地下資源調査所	札幌市中央区南11条西3丁目 〒060 TEL 011-511-0111
土 壤	農 地 農林省北海道農業試験場	札幌市豊平区羊ヶ丘1 〒061-01 TEL 011-851-9141
森 地	農林省林業試験場北海道支場 北海道立林業試験場	札幌市豊平区羊ヶ丘1番地 〒062 TEL 011-851-4131 美瑛市光珠内町東山 〒079-01 TEL 01266-3-4164
土地利用現況	北海道開発調整部	札幌市中央区北3条西6丁目 〒060-91 TEL 011-231-4111(内線2432)
土地利用可能性分級	農林省北海道農業試験場 農林省林業試験場北海道支場 北海道開発調整部	札幌市豊平区羊ヶ丘1 〒061-01 TEL 011-851-9141 札幌市豊平区羊ヶ丘1番地 〒062 TEL 011-851-4131 札幌市中央区北3条西6丁目 〒060-91 TEL 011-231-4111(内線2432)

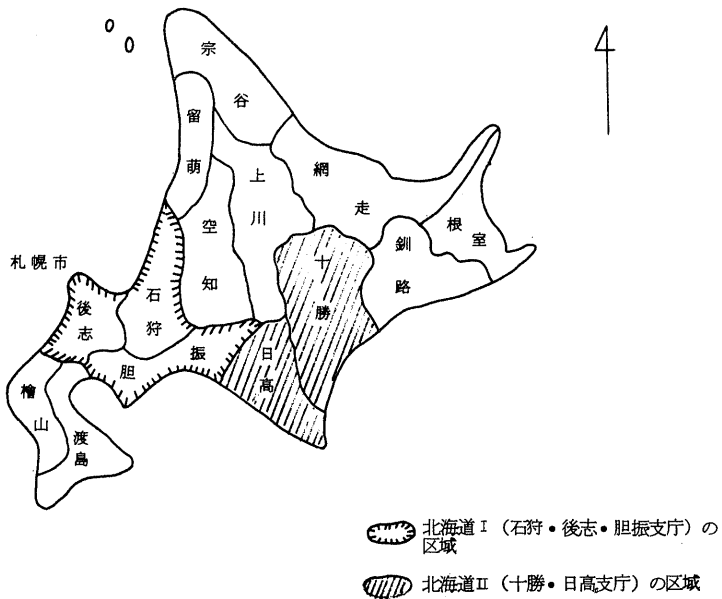
V 縮尺 20 万分の 1 土地分類調査のすすめ方

北海道を 5 ブロックに区分し、次表のスケジュールにより昭和 47 年から昭和 52 年の 6 カ年で調査することとしている。

地区番号	調査年度	支庁名	面積	図幅区分	図幅単位別面積
I	47~48	石狩	3,551 (km <sup>2</sup> )	1	11,555 (km <sup>2</sup> )
		後志	4,302		
		胆振	3,702		
II	48~49	十勝	10,831	2	10,831
		日高	4,838	3	4,838
III	49~50	上川	9,870	4	9,870
		空知	6,586	5	6,586
IV	50~51	網走	10,687	6	10,687
		渡島	3,726	7	6,581
		檜山	2,855		
V	51~52	宗谷	4,076	8	8,105
		留萌	4,029		
		根室	3,459	9	9,462
		釧路	6,003		
	47~52	計	78,515		78,515

注 齒舞諸島, 色丹島, 国後, 択捉島を除く。

支庁行政区域図







## A . 土地条件等の概要の部



## 1. 地形区分とその性状等の概要

### 1-1 総説

十勝地域（十勝支庁管内）の地形は、十勝平野を中央に、北海道の春梁山脈である日高山地の主要部がその西部を占め、北部は北海道の屋根と呼ばれる大雪連峯に連なる山地が占める。北西端には十勝火山地があり、東部には小起伏の白糖山地や雌阿寒火山地がある。

十勝平野は日高山地と急崖をなしてその東に接する大平野で、石狩平野につぐ北海道第二の平野である。主に丘陵地・台地等よりなる。平野の中央を北西より南東に十勝川が流れ、下流では大津川を分流する。十勝川の支流には然別川、音更川、利別川、芽室川、美生川、戸蔦別川、札内川、途別川、糖内川、浦幌川等があり、その他、歴舟川、豊似川、野塚川、楽古川、広尾川等の各河川が流れ、扇状地性低地（氾濫原、谷底平野）をつくり、河口には三角州性低地を形成している。

### 1-2 地形区分

十勝地域（十勝支庁管内）の地形を、地形のまとまりのうえから次のように分類した。分類する場合には大きなまとまりを重視し、細かい地形はある程度省略した。

- |     |     |        |      |        |       |       |      |      |
|-----|-----|--------|------|--------|-------|-------|------|------|
| 大分類 | A I | 日高山地   | A II | 十勝北部山地 | A III | 十勝火山地 | A IV | 白糖山地 |
|     | A V | 雌阿寒火山地 |      |        |       |       |      |      |
|     | B I | 十勝丘陵地  | B II | 十勝台地   |       |       |      |      |
|     | C I | 十勝低地   |      |        |       |       |      |      |

### 1-3 地形区の概要

#### A I 日高山地

日高山地は管内においては芽室岳（1,754 m）、戸蔦別岳（1,960 m）、札内岳（1,896 m）、ペテカリ岳（1,736 m）、神威岳（1,601 m）、楽古岳（1,472 m）等の高山よりなり、北海道の背骨をなす褶曲山脈である。日高山地は中生代末から新生代にかけての汎世界的なアルプス造山運動の時代に、日高造山運動によって形成され、その後鮮新世に急激な隆起をし、日高山地の東縁が急崖をなして十勝平野にのぞむことでも知られるように、洪積世中期以後には断層運動をともなって隆起し、北部では断層、南部では撓曲運動の影響をうけている。日高山地の山体は大部分が大、中起伏山地をなしており、南端は日高支庁管内のエリモ岬で海に没している。稜線付近には多くのカール（圏谷）地形が見られ、いづれも屋根直下の東斜面に分布している。

#### A II 十勝北部山地

裏大雪山地とも呼ばれる地域で、ニベツツ山（2,013 m）を主峰に、ウベベサンケ山（1,835 m）、石狩岳（1,962 m）、ピリベツ岳（1,602 m）、火山として図示はしなかったが然別湖周辺の然別火山群などが含まれる。西部は日高系が占めるが東部は火山岩質地域である。山間には三股盆地や糖平盆地などの旧湖盆が発達する。

#### A III 十勝火山地

この地域に包含される十勝火山地は下ホロカメットク山（1,668 m）、十勝岳（2,077 m）からト

ムラウン山(2,141m)、五色ヶ原にかけてであり、十勝火山体の一部をなし、大、中起伏火山地をなす。

#### AⅣ 白糖山地

十勝平野の東方にあり、釧路支庁との境界をなす地域に分布する山地で、小起伏山地である。主に第三紀層よりなる。この区分の中には小面積の台地や低地も包含される。

#### AⅤ 雌阿寒火山地

雌阿寒岳火山の一部で、ここでは小面積を占めるだけである。

#### BⅠ 十勝丘陵地

十勝地域の丘陵を一括して十勝丘陵地とよぶことにする。大部分は大起伏丘陵地よりなり、小起伏丘陵地はせまい。十勝平野の中央部に大起伏丘陵地が分布し、日高山麓に小起伏丘陵地が分布する傾向がみられ、しかも前者は広面積を占め、後者は小面積を占める。

十勝丘陵地をつぎのようにBⅠ-1から19まで細分するが、これらの中には小面積の山地、台地、低地の包含されるところもある。

- BⅠ-1 足寄丘陵    BⅠ-2 上旭ヶ丘丘陵    BⅠ-3 居辺丘陵    BⅠ-4 長流枝内丘陵  
BⅠ-5 中川丘陵    BⅠ-6 新得丘陵    BⅠ-7 清水丘陵    BⅠ-8 円山丘陵  
BⅠ-9 芽室丘陵    BⅠ-10 雨山丘陵    BⅠ-11 帯広岳東丘陵    BⅠ-12 豊頃丘陵  
BⅠ-13 忠類丘陵    BⅠ-14 モイワ山丘陵    BⅠ-15 紋別丘陵  
BⅠ-16 135m丘陵    BⅠ-17 豊似丘陵    BⅠ-18 野塚丘陵  
BⅠ-19 広尾丘陵

#### BⅡ 十勝台地

十勝地域の砂礫台地・ローム台地を一括して十勝台地とよぶことにする。

十勝台地に砂礫台地は比較的少なく、大部分はローム台地よりなるのは、西方に多くの火山があり、その降灰がこれら台地上に厚く堆積するためである。

十勝台地をつぎのようにBⅡ-1から12まで細分したが、これらの中には小面積の低地が包含されるところもある。

- BⅡ-1 足寄台地    BⅡ-2 中川台地    BⅡ-3 士幌台地    BⅡ-4 河東台地  
BⅡ-5 美蔓台地    BⅡ-6 佐幌台地    BⅡ-7 御影台地    BⅡ-8 伏古台地  
BⅡ-9 河西台地    BⅡ-10 茂岩台地    BⅡ-11 長節台地    BⅡ-12 豊似台地

#### CⅠ 十勝低地

十勝地方の扇状地性低地や三角州性低地がこれにあたるが、CⅠ-1の十勝川低地とCⅠ-2の利根川低地にのみ分類した。その他の中、小河川の流域は省略して他の地域区分の中に包含した。

瀬川 秀良(北海道教育大学)  
奈良部 理(            "            )  
野川 潔(            "            )

## 2. 表層地質の分布とその性状等の概要

### 2-1 一般地質

この地域を地形、地質の特徴から概観すると、十勝平野を中心に平野の西部は日高山地、北部は石狩山地、然別山系、東北から南東にかけては阿寒火山、白糖・豊頃丘陵と四つの地域に大別できる。これからのべる地質概要は大別した四つの地域を中心に進める。

#### 2-1-1 十勝平野

この地域は固結～未固結堆積物、火山性岩石が分布する。固結～半固結堆積物は第三系鮮新統に属す池田層で、十勝平野の直接の基盤となっている。これには凝灰岩層、亜炭層、砂礫層などを挾有するが砂岩として一括し塗色した。

未固結堆積物は第四系に属する粘土、泥炭、礫・砂・粘土がある。粘土は十勝平の北東部および南部の大平洋岸低地に、泥炭は帯広市南西の低地に分布する。また、礫・砂・粘土はこの地域を流れる各河川の流域に分布する氾らん原堆積物である。

火山性岩石は第四系に属するローム、火山灰、軽石などの累積層であるが、ロームとして一括した。十勝平野および周辺の丘陵地に広く分布する。このロームは厚さ2 m以上ある地域を塗色した。

#### 2-1-2 日高山地

この地域は南北性～東西性の断層が存在し、また向斜・背斜構造が発達し複雑な地質構造を示している。固結～未固結堆積物、火山性岩石、深成岩類、変成岩類が分布する。

固結堆積物はジュラ系～第三系に属している。ジュラ系は、粘板岩、砂岩、礫岩からなる。粘板岩として一括した地層は、中の川層群の札内川層の一部、シビチヤリ川層、ヤオロマップ層の一部と神威層郡のイドンナップ層である。また、砂岩・礫岩として一括したのは、中の川層群の札内川層の一部およびヤオロマップ層の一部をふくむ（この砂岩・礫岩と図示した岩相は、この地域では砂岩相が主体である）。これらの地層は日高山脈の変成帯と平行して分布する。

第三系には礫岩、泥岩がある。礫岩とした地層は大樹層群豊似川層で、泥岩として一括した地層は大樹層群の尾田村層、大樹層である。礫岩、泥岩ともジュラ系の地層の東に分布している。

未固結堆積物は第四系に属すもので、礫・砂、礫・砂・粘土がある。礫・砂は段丘堆積物および氷堆石で、礫を主としている。礫・砂・粘土は各河川の流域に分布する氾らん原堆積物である。

火山性岩石は第四系に属すローム、火山灰、軽石等で、北東部山麓に分布する。これを一括してロームとした。

深成岩類には花崗岩質岩石とはんれい岩質岩石がある。花崗岩質岩石として一括したのは、花崗岩、花崗岩質ミグマタイト、含堇青石黒雲母ミグマタイトである。日高山脈中軸部に分布する。はんれい岩質岩石として一括したのは、角閃石はんれい岩、かんらん石はんれい岩、片麻状はんれい岩である。日高山脈の中央部および南部に分布する。

変成岩類として一括したのは、片状ホルンフェルスと片麻岩質岩石があり、まえにのべた深成岩類の東側にほぼ南北に分布する。

#### 2-1-3 石狩山地・然別山系

この地域はジュラ系～第三系の堆積岩類および火山性岩石が広く発達している。また、然別湖、糖平湖（人造湖）などの湖が存在する。

固結～未固結堆積物、火山性岩石のほか深成岩類がわずかに分布する。

固結～未固結堆積物はジュラ系～第四系に属す。ジュラ系～白亜系は粘板岩、砂岩、礫岩がある。粘板岩として一括したのは、日高累層群のニベソツ層、十勝バンケ層、チカベツ層で、日高山脈の延長部に当る十勝上流に分布する。砂岩・礫岩は日高累層群の十勝バンケ層で、これも十勝川上流にわずかに分布する。第三系には、泥岩、礫岩、砂岩、砂岩・泥岩互層がある。泥岩として一括したのは、浦幌層群の雄別層、音別層群の茶路層。礫岩として一括したのは、浦幌層群の留真層、陸別層および本別層の一部からなる。砂岩として一括したのは、川上層群の本別沢層の一部、貴老路層の一部からなり、砂岩・泥岩互層はフクロ沢層である。これらの地層は、東部に分している。また、これらの地層には断層あるいは向斜・背斜構造が存在し、いちぢるしく擾乱されている。

未固結堆積物は第四系に属す。砂・礫・粘土、礫・砂、碎屑物がある。砂・礫・粘土は更新統の上旭ヶ丘礫層、植坂山礫層で、然別山系東部の丘陵地に分布する。礫・砂は河川流域に発達する段丘堆積物からなる。碎屑物は後背山地の崩壊したもので崖錐堆積物である。十勝三股に典型的に分布がみられる。

火山性岩石は、輝緑岩質岩石、玄武岩質岩石、安山岩質岩石、流紋岩質岩石、凝灰岩質岩石、火山碎屑物、軽石流堆積などがある。これらはジュラ系から第四系にわたる。輝緑岩質岩石として一括したのは、輝緑岩、スピライト質岩で、主に北東部に分布する。玄武岩質岩石は玄武岩熔岩および岩脈があり、北東部に分布する。安山岩質岩石として一括したのは、安山岩熔岩、安山岩岩脈、プロピライトである。北部の十勝岳、トムラウシ山、沼の原山、然別山系、喜登牛山、東三国山などにかけて広く分布する。流紋岩質岩石は流紋岩熔岩で、然別山系の北部に分布する。

凝灰岩質岩石として一括したのは、十勝層群のトブシ凝灰岩層、中足寄凝灰岩層、上愛別凝灰岩層、浦幌坂凝灰岩層などである。然別山系の東部に分布する。火山碎屑物は未固結の火山岩塊、流れ山などを一括したもので、然別山系の南麓部に発達する。軽石流堆積物としては、第四系更新統に属する。熔結凝灰岩、軽石流を一括した。十勝岳～トムラウシ山の山麓部および然別山系の東部～北東部に分布する。深成岩類には斑岩、花崗岩質岩石がある。斑岩は岩脈として糖平湖の東岸にわずかに分布し、花崗岩質岩石は然別山系の西方、ピンカチナイ山、および北部のユニシ狩岳、音更山に分布する。変成岩類としては、緑色片岩があり、十勝岳の東部に分布する。

#### 2-1-4 阿寒火山および白糖・豊頃丘陵

この地域は北東～北北東方向の断層、東西性の断層が発達し、また向斜、背斜構造も発達しており複雑な構造を示している。この影響を受けて、ここに分布する堆積岩類はいちぢるしく擾乱されている。

固結～未固結堆積物は白亜系～第四系に属す。白亜系には泥岩、砂岩・泥岩互層がある。泥岩としたのは根室層群の活平累層と川流布累層の上部で、白糖丘陵の基盤をなして分布する。砂岩・泥岩互層としたのは、根室層群の川流布累層の一部で、白糖丘陵の西部に分布する。

第三系中新統～鮮新統に属すものには、泥岩、礫岩、砂岩・泥岩互層がある。泥岩は第三系の各層準の泥岩、頁岩、シルト岩を一括した。白糖丘陵の西部および南部に分布し、さらに、豊頃丘陵にも広く分布する。この泥岩はかなり風化を受けており、また地すべりも存在する。礫岩は留真層、チョウブシ層の上部および生花苗層の一部のものを一括した。白糖丘陵ではまえにのべた泥岩のすぐ西側に帯状に分布し、豊頃丘陵では丘陵の北部から南部に断続的に分布する。砂岩・泥岩互層は白糖丘陵の北西部～南東部に分布し、豊頃丘陵では西部にわずかに分布する。

未固結堆積物は第四系に属する。泥炭、粘土・砂・礫・砂・粘土が区別できる。泥炭は十勝川の下流域と海岸沿いの低平地に分布する。砂は海岸に発達する海浜砂で直別川河口から湧洞沼にかけて分布する。礫・砂・粘土は各河川流域に分布する氾らん原堆積物である。

火山性岩石には安山岩熔岩がある。これは雌阿寒岳を中心に分布している。

## 2-2 応用地質

地域内には地下資源として有用鉱物、温泉、骨材などの資源がある。また、資源とは別であるが地すべり地や崩壊地が存在するが、図示する規模のものはないので省略した。

有用鉱物資源は、金属鉱物として、金、銀、銅、鉛、水銀、磁硫鉄鉱、硫化鉄鉱、褐鉄鉱などがあり、非金属鉱物には耐火粘土、カオリン、モンモリロナイト、天然ガス等がある。これら資源のうち過去に探鉱あるいは稼働していたのは、トムラウシ鉱山（銅・硫化鉄）、勢多鉱山（カオリン：昭和48年頃に休止）、十勝三股（モンモリロナイト：昭和49年頃に休止）などである。これ以外のものは徴候地として知られているに過ぎない。

温泉として代表的なものは、十勝川温泉、糖平温泉、トムラウシ温泉がある。

骨材資源は河川砂利が対象で、十勝川、当縁川で採取している。

松井公平（北海道立地下資源調査所）

## 3. 土壌の分布とその性状および生産力可能性等の概要

### 3-1 土壌の類別および作図の方法

本調査における土壌の類別は、表-1の土壌統群一覧表に示した基準にしたがって実施した。

図示単位は原則として土壌統群を使用した。山地、丘陵地地域の土壌のうち線状あるいは小斑状に細かく分布するために、本縮尺では図示困難ないくつかの土壌統群については、それらの混在相の規則性に基づいて、表-2に示すように12の土壌混在区を設け、それを作図単位とした。すなわち表-1において※印のついた9の土壌統群は、それぞれ単独では図示単位として使用されておらず、他の土壌統群との組合せ（土壌混在区）で図示されている。なお、分級、面積計測など土壌図を使った一連の作業は、表-1の土壌統群（※印を除く）と表-2の土壌混在区について行なった。

本図幅における山地、丘陵地、台地、低地の土壌は土壌群10、土壌統群24、混在区11に分類される。各種土壌の分布および、それを地形、地質、生産力との関連をみるとつぎのとおりである。

### 3-2 山地および丘陵地の土壌

#### 3-2-1 全域の概要

十勝地域（十勝支庁管内）の山地・丘陵地は大きく、日高山地・十勝北部山地・白糖山地および丘陵地区に区分できる。日高山地は幌尻岳を最高点とし、狩勝峠以南にある。十勝北部山地は、十勝岳・石狩岳・ピチカチナイ山を中心とする石狩山地、ニベツツ山・ヌブカウシ山・クマネシリ岳・喜登牛山を含む然別火山山地、陸別町・足寄町にわたる北見南部山地（阿寒火山山地も含める）に分けられる。また白糖山地は足寄川以南の白糖丘陵に含まれる東部の山地である。丘陵地区には平野部を形成している十勝台地、平野南部にある豊頃丘陵、および白糖丘陵の一部を含む。

表 - 1 土 壤 統 群 一 覧 表

大 分 類 ( 土 壤 群 )	中 分 類 ( 土 壤 亜 群 )	小 分 類 ( 土 壤 統 群 )
岩石地	岩石地	岩石地※
岩屑土	高山性岩屑土	高山性岩屑土壤※
	岩屑土	岩屑土壤※
未熟土	残積性未熟土	残積性未熟土壤
	砂丘未熟土	砂丘未熟土壤
		湿性砂丘未熟土壤
	火山抛出物未熟土	火山抛出物未熟土壤
粗粒火山抛出物未熟土壤		
湿性粗粒火山抛出物未熟土壤		
くろぼく土	累層くろぼく土	累層くろぼく土壤 湿性累層くろぼく土壤
	くろぼく土	くろぼく土壤 a (くろぼく土)
		くろぼく土壤 b (ローム質くろぼく土)
		湿性くろぼく土壤 a (くろぼく土)
		湿性くろぼく土壤 b (ローム質くろぼく土)
未熟くろぼく土	未熟くろぼく土壤 湿性未熟くろぼく土壤	
淡色くろぼく土	淡色くろぼく土壤 a (くろぼく土) 淡色くろぼく土壤 b (ローム質くろぼく土)	
褐色森林土	褐色森林土	乾性褐色森林土壤※
		褐色森林土壤※
		湿性褐色森林土壤※
褐色森林土壤Ⅳ		
暗色系褐色森林土	暗色系褐色森林土壤※	
ポドゾル	乾性ポドゾル	乾性ポドゾル化土壤※
	湿性ポドゾル	湿性ポドゾル化土壤※
赤黄色土	赤色土	赤色土壤
暗赤色土	火山性暗赤色土	火山性暗赤色土壤
褐色低地土	褐色低地土	褐色低地土壤
		粗粒褐色低地土壤
灰色低地土	灰色低地土	細粒灰色低地土壤
		灰色低地土壤
		粗粒灰色低地土壤
灰色台地土	灰色台地土壤	
グライ土	グライ土	細粒グライ土壤
		グライ土壤
		粗粒グライ土壤
グライ台地土	グライ台地土壤	
泥炭土	高位泥炭土	高位泥炭土壤
	中位泥炭土	中位泥炭土壤
	低位泥炭土	低位泥炭土壤

※ 単独では図示せず、他の土壌統群との組合せ(混在区)で図示した。



表一 混在相図示単位一覧表(山地・丘陵地について)

土 壤 混 在 区	主 要 構 成 土 壤 ( 統 群 )
高山性岩屑土壌——岩石地	高山性岩屑土壌・岩石地(モザイク配列)
岩屑土壌——岩石地	岩屑土壌・岩石地(モザイク配列)
褐色森林土Ⅰ	} 乾性褐色森林土壌(屋根筋)・褐色森林土壌(中腹)・ 湿性褐色森林土壌(斜面下部)のカテナ配列。面積比で 乾性が25%以上をⅠ、湿性が25%以上をⅢ、乾湿そ れぞれ25%未満をⅡとした。
褐色森林土Ⅱ	
褐色森林土Ⅲ	
褐色森林土——粗粒火山抛出品未熟土壌	褐色森林土壌・粗粒火山抛出品未熟土壌
褐色森林土——くろぼく土	褐色森林土壌・各種くろぼく土壌
褐色森林土——乾性ポドゾル化土壌	褐色森林土壌(山腹)・乾性ポドゾル化土壌(尾根筋)
暗色系褐色森林土——ポドゾル化土壌	暗色系褐色森林土壌(山腹)・ポドゾル化土壌(主に乾性、 尾根筋)
ポドゾル化土壌Ⅰ	乾性ポドゾル化土壌・暗色系褐色森林土壌・褐色森林土壌
ポドゾル化土壌Ⅱ	湿性ポドゾル化土壌・乾性ポドゾル化土壌・暗色系褐色森 林土壌・褐色森林土壌
ポドゾル化土壌——高山性岩屑土壌	ポドゾル化土壌(主に乾性、ハイマツ群落下)・高山性岩屑土壌

これらの山地・丘陵は全地域が砂質・微砂質の火山灰の降下堆積によって覆れており、土壌表層には多少とも火山灰層がみられるが、地質構造や侵食程度が違うのでその様相はまちまちである。一般に山地にみられる土壌は基岩風化物に由来しており、新期火山灰をのせていることが多い。一方丘陵地の緩斜面にみられる黒ボク土壌等は新期・古期火山灰の堆積物を母材とした土壌である。

### 3-2-2 日高山地

日高山地は開析が進んでおり、急崖が多いことを特徴とするが、平野との接続部には平坦な堆積面をもつ段丘の発達がみられる。急斜面が多い山地はいわゆる古生層とこれを貫いた花崗岩・変成岩類からなり、火山灰は多くの場合流亡しており、稜線部に高山性岩屑土壌・岩石地・ポドゾル化土壌が混在し、その下方には岩屑土壌・岩石地・残積性未熟土壌が分布し、標高1,000m以上には暗色系褐色森林土壌も出現する。低山への移行部には一般に適潤性褐色森林土壌が分布するが、やや傾斜のゆるやかなところには黒ボク土壌が混在する。低山部緩斜面・段丘面には黒ボク土壌が分布しているが、とくに北部ではやや細粒な火山灰の堆積が厚く、累層黒ボク土壌・湿性黒ボク土壌が出現する。

### 3-2-3 十勝北部山地

石狩山地は古生層とこれを覆う熔結凝灰岩・新期安山岩よりなる地区である。十勝川上流の西域には平坦な台地状地形がみられるが熔結凝灰岩による流走面で適潤性褐色森林土壌が分布し、一方東域は主として古生層よりなる壮年期山地であり標高1,200m以下に褐色森林土壌が分布する。また、十勝岳・トムラウシ岳山頂附近には粗粒火山抛出品未熟土壌がみられ、その下方には帯状にポドゾル化土壌・高山性岩屑土壌が分布し、700m以上には暗色系褐色森林土壌・ポドゾル化土壌が出現する。

然別火山山地は、上部が安山岩類に覆われた地域で、高山山頂部には岩石地・高山性岩屑土壌がみられる。標高700~1,000m以上には、広く暗色系褐色森林土壌・乾性ポドゾル化土壌が出現しているほか褐色森林土壌がみられるが、これらはモザイク状に分布する。さらに低標高部には広く適潤性褐色森林土壌が分布するが、崩積地・河岸段丘等には湿性褐色森林土壌がみられる。また、西ヌブカウシ山から喜

登牛山の中腹・山麓部では微砂質の火山灰の堆積が厚く、黒ボク土壌・累層黒ボク土壌が分布する。

北見山地の多くは、熔岩台地（安山岩）・ジュラ紀山地・第三紀層山地・段丘等よりなる地域で、標高600m以下比較的の小起伏の山地である。火山灰の堆積は北に向うにつれて薄く、北部では広く褐色森林土壌が分布する。南部の段丘平坦面上には砂質の未熟層を含む淡色黒ボク土壌が分布するが、開析された斜面には淡色黒ボク土壌と褐色森林土壌が混在している。

阿寒火山山地の雌阿寒・阿寒富士の山頂附近には高山性岩屑土壌・岩石地・粗粒火山抛出物未熟土壌があり、その下方に乾性ポドゾル化土壌・湿性ポドゾル化土壌・暗色系褐色森林土壌が带状に分布している。

#### 3-2-4 白糖山地

白糖山地は白亜紀層・第三紀層よりなる地域で、白糖丘陵とよばれる地形区に含まれるが、比較的起伏量が大い地形を示し、広く適潤性褐色森林土壌が分布する。侵食量が大いので残積性未熟土壌がみられ、乾性褐色森林土壌も分布する。

#### 3-2-5 丘陵地区

丘陵地区の緩斜面には、広く砂質の未熟層（新期火山灰）をもつ淡色黒ボク土壌が分布する。台地上平坦面（多くは農地として利用されている）・山脚または山腹凹面、谷筋等には黒ボク土壌が現れている（厳密には累層黒ボク土壌もみられるが表現上黒ボク土壌とした）。また、豊頃丘陵にみられるように開析された地区では褐色森林土壌と黒ボク土壌が混在している。

山 根 玄 一（北海道立林業試験場）

### 3-3 台地および低地の土壌

#### 3-3-1 概 要

十勝地域（十勝支庁管内）農牧地の主体をなすものは台地と、大小河川によって形成された沖積地である。台地は新期、古期の火山放出物によって厚く被覆される火山性土壌（黒ボク土壌）で、沖積土は火山灰を混入するか、新期の火山灰を薄く被覆している。河川に最も近い所は氾濫原で降雨、融雪時には水没する所が多い。

台地の大部分は3類地で畑として利用され豆類、根菜類、台地と山地・丘陵地の接続部の山麓地帯は酪農経営が多く、牧草地が広い。

低地は2～3類地で大部分が河成、一部に扇状地、泥炭地が分布し、水田とそ菜を主とする畑、沿海および山麓地帯では根菜類、牧草地として利用されている。

#### 3-3-2 山麓地帯

十勝支庁の北部、西部および東部の丘陵地、山地に連なる台地、段丘地の接続部であって大部分は北部と西部で、標高が高く気候冷涼、早期に降雨、降雪がある。融雪期もおくれ農耕期間は最も短い。農耕期間の積算温度は、2,200℃である。西部は支笏、恵庭起源のローム層の上部に樽前山火山灰a、b、d、十勝岳火山灰c、雌阿寒岳火山灰cなどを累積する火山性土壌（黒ボク土壌）で、未熟黒ボク土壌、黒ボク土壌、湿性累層黒ボク土壌、淡色ローム質黒ボク土壌が分布する。北部はローム層が薄層となり、軽石流（置戸軽石流）の上部に雌阿寒岳火山灰cを被覆する火山性土壌（淡色黒ボク土壌）と安山岩、凝灰岩類を母材とする褐色森林土壌が分布する。又東部は泥岩、砂岩、輝緑岩類を母材とする褐色森林土壌とその上部に前記火山灰の薄層の累積からなる淡色黒ボク土壌が分布する。酪農経営が主で牧草地が大部分を占める。一部畑作は根菜類を主作とするが収量は低い。排水施設の完備、混層耕、心土破碎、有機物の多施、酸性矯正、磷酸資材の投入などが必要である。

### 3-3-3 中央地帯

十勝支庁の中央部に位置する台地、段丘および十勝川、音更川、利別川、日方川その他の小河川流域の低地で緩傾斜へ平坦な地形である。内陸性気候を呈し、農耕期間の積算温度は $2,400^{\circ}\text{C}$ である。冬期間は寒冷で土壌凍結が著しく、農耕開始の遅延、春先の水害を助長している。春は異常乾燥による風蝕があり、秋は早霜による冷害がしばしばある。

土壌は地形が平坦のため火山灰が安定し前記火山灰が総て累積している。排水の良い処には未熟黒ボク土壌、黒ボク土壌、累層黒ボク土壌、淡色黒ボク土壌、淡色ローム質黒ボク土壌が分布し、排水の悪い所には、それらの土壌の湿性なものが分布する。低地は褐色低地土壌、粗粒褐色低地土壌が大半を占める。畑作の中心地で高台では豆類、根菜類、低地では、そ菜も多く栽培され、収量は高い。基盤整備、土層、土壌改良は前地帯に準ずる。

### 3-3-4 沿海地帯

太平洋に面する地帯で、平坦な低位段丘および台地と各河川流域の低地が主体を占め、一部、粘板岩、砂岩、泥岩、シルト岩を母材とする褐色森林土壌が分布する。濃霧による低湿、日照不足地帯で、農耕期間の積算温度は $2,200^{\circ}\text{C}$ である。最高、最低温度の差は山麓地帯に比し少ない。土壌は中央地帯と同様の火山灰の累積で粗粒となり、未熟黒ボク土壌、淡色黒ボク土壌の分布が広く、湿地が少ない。低地は褐色低地土壌、粗粒褐色低地土壌が広く、各河川流域および、沢部に泥炭地が分布する。酪農経営が主体で、根菜類を主作とする畑もあるが収量は低い。台地の土壌に対しては、混層耕、低地の湿地では幹線明渠の施行が特に必要である。

佐々木 龍 男（北海道農業試験場）

## 4 土地利用可能性分級等の概要

### 4-1 土地利用現況等の概要

- (1) 本地域は、北海道の東部に位置し、三方を日高山地、石狩山地、白糖丘陵などで囲まれ、南方は太平洋に面し、内陸には広大な十勝平野を擁する1市16町3村で構成される $1,083.1\text{Km}^2$ の地域で、本道総面積の約13%、本道総人口の約7%を占めている。

気候は、太平洋沿岸を除き一般的に大陸型気候で、日照時間、晴天日数に恵まれ、降水量は少ない。年平均気温は $6^{\circ}\text{C}$ 内外で、夏季は昼夜間の温度差が $10^{\circ}\text{C}$ と大きく、8月の日最高平均気温は $25^{\circ}\text{C}$ と高いが、冬季は1月の平均気温が $-9.3^{\circ}\text{C}$ 、日最底平均気温は $-16.8^{\circ}\text{C}$ でときには $-30^{\circ}\text{C}$ 近くまで低下する日もあり、全道的にみても寒さの厳しい地域である。

積雪量は少なく、風も弱い方であるが、春季にはしばしば風害をもたらすことがある。

なお、太平洋沿岸はいわゆる濃務地帯であって、気温は全般に低く曇天日数が多い。

- (2) 土地利用の現況は、林野面積が $7,782\text{Km}^2$ で、地域面積の約72%を占め、次いで農用地が $1,997\text{Km}^2$ で18%、宅地は $49\text{Km}^2$ で0.5%、河川（十勝川、大津川等）、湖沼（然別湖、糖平湖、岩松湖）、その他が $1,033\text{Km}^2$ で9%となっている。

#### ・農用地

本地域は、北海道における代表的な畑作地帯であり、畑地面積は本道畑地総面積の約30%に当たる $1,832\text{Km}^2$ で、地域の農用地面積の92%を占めている。

畑地は、十勝川流域に広がる十勝平野に広く分布しているが、畑作物の作付構成比をみると、豆類のウエイト（30%）の高いのが特徴的である。

なお、水田面積は僅か $54\text{Km}^2$ で農用地面積の3%を占めるにすぎない。

利用草地（永年牧草地、自然草地）は、 $111\text{Km}^2$ で、農用地面積の約6%を占め、主として豊頃町、足寄町、陸別町に分布している。

・林野面積

林野面積（林地及び原野）は、 $7782\text{Km}^2$ で、その所有区分別内訳をみると国有林野55%、民有林野32%、公有林野13%となっている。

林地面積は、 $7324\text{Km}^2$ で林野の94%を占めるが、大部分は天然林である。人工林は $911\text{Km}^2$ で林地の約12%を占め、カラマツ、トドマツ等の針葉樹を主体に、新得町、足寄町、浦幌町に多く分布している。

林野の公益的利用として、保安林約 $140\text{Km}^2$ が日高山地、石狩山地、足寄町北部の雌阿寒岳山麓一帯に設定されているほか、自然休養林として約 $12\text{Km}^2$ が設定されている。

・自然公園等

自然公園としては、大雪山国立公園の一部、阿寒国立公園の一部、襟裳道立自然公園の一部が含まれ、約 $1355\text{Km}^2$ である。

天然記念物は、大津海岸長節湖畔野生植物群落（豊頃町）、然別湖のオシロコマ生息地（鹿追町、上士幌町）等があり、このほか北海道自然環境等保全条例に基づく環境緑地保護地区、自然景観保護地区等が散在的に約180ヘクタール指定されている。

・その他

都市計画区域としては、帯広圏（1市3町）のほか8町で約 $388\text{Km}^2$ が指定されているが、国道242号線バイパス計画、重要港湾十勝港の整備振興計画による背面工業団地の具体化等に関連して、都市的な土地利用の増大、計画的な市街地の形成が見込まれている。

このほか、おもな土地利用としては帯広空港（帯広市）、自衛隊用地（鹿追町）などがあげられる。

渡辺俊彦、岩間勝久（開発調整部土地対策課）

## 4-2 土地利用可能性分級の地域別概要

土地利用可能性等級は標高、傾斜、土壌生産力可能性等級によって定められる。本地域では標高区分は $H_1\sim H_4$ 、傾斜区分は $S_1\sim S_6$ 、土壌生産力可能性等級は $P_1\sim P_3$ と幅広く、これがため土地利用可能性等級の組合せは複雑である。類地区分を面積別で見ると、最も広いのは3類地で全面積の約52%、4類地は約16%、2類地と6類地は約10%、5類地は約8%、7類地は4%で、1類地は1%以下である。6類地の一部には河川沿いの氾濫原および堤防内敷地が含まれており、これらは農地として利用できない。

1類地は十勝川、十勝川流域に僅かに分布するに過ぎず、本図幅では論ずるに足りない面積である。

2類地は十勝地域（十勝支庁管内）の南部に広く分布する。即ち、大樹町、広尾町、豊頃町に広く、歴舟川、豊似川、野塚川流域の低地と湧洞川流域の丘陵地に分布し、そのほか小面積であるが浦幌町の浦幌川左岸台地、十勝川、美里別川流域にも分布する。

3類地は、十勝地域（十勝支庁管内）全面積の52.1%を占め最も広く、十勝川を中心とする段丘、低地のいわゆる十勝平野部と利別川両岸の丘陵地に分布する。平野部では標高は大部分が $H_1$ で、傾斜は $S_1\sim S_2$ 、丘陵地は標高は $H_2$ 、傾斜は $S_2\sim S_3$ で $S_3$ が大部分を占め、一部、十勝川、音更川、ピリベツ川上流域に $H_2$ 、 $S_2\sim S_3$ で分布している。3類地全面積のうち占有面積で見ると、足寄町が最も広く（12%）、陸別

町、音更町がこれに次ぎ（7～8%）、広尾町が最も少ない（2%）。

4類地は十勝平野に接続する丘陵地がこれに属する。したがって狩勝峠（644）以南の日高山脈の東部、岩松ダム、上士幌町清水谷、陸別町上陸別を結ぶ線以北の大雪山国立公園との接続部、ウコタキヌブリ山（745）以南の丘陵地である。標高は $H_1 \sim H_2$ 、傾斜は $S_4$ が主体を占め、土壌生産可能性等級は $P_2$ が大部分を占める。4類地のうちで占有面積が最も広いのは足寄町（22%）、次いで新得町（16%）、浦幌町（13%）である。

5類地は雌阿寒岳（1,371）以南に局部的に分布するほかは狩勝峠とキトゥン山（1,312）を結ぶ以北のウベベサンケ山（1,835）、ニベツ山（2,013）、チカベツ山（1,020）、山麓および十勝ポロシリ岳（1,846）、神威岳（1,601）、楽古岳（1,472）、周辺地に主体がある。雌阿寒岳以南は標高は $H_2$ 、傾斜は $S_4$ 、土壌生産力等級区分は $P_4$ 、キトゥン山～狩勝峠以北では標高 $H_3$ 、傾斜 $S_4$ 、生産力等級は $P_2$ が大部分を占める。狩勝峠以南は標高 $H_2$ 、傾斜が $S_5$ 、生産力等級は $P_2$ が大部分を占めている。占有面積の最も広いのは、新得町（25%）で、足寄町（16%）、広尾町（16%）、上士幌町（14%）の順である。

6類地は、5類地に接続する山地が大部分であるが、十勝川、音更川、札内川、美里別川、利別川、振別川および小河川流域の氾濫原地帯にも分布する。山地では東部にあっては、雌阿寒岳周辺に僅かと日勝峠以南とチカベツ山、然別湖周辺、キトゥン山以北の山地の稜線に分布し、標高は主体を占める山地では $H_3$ 、傾斜は日勝峠以南では $S_5$ 、生産力等級は $P_5$ 、北部山地では $S_2 \sim S_5$ で、 $S_4 \sim S_5$ が過半を占め、生産力等級は $P_4$ が大部分を占める。河川沿いのものは、標高、傾斜は $H_1$ 、 $S_1$ であるが、氾濫や堤防内敷地のため農業的価値が少なく $P_5$ に位置付けられるためである。占有面積の最大は新得町（18%）で上士幌町がこれに次ぐ。

7類地は6類地より更に標高が高く、傾斜の強くなる山地であって、大部分は日高山脈の日勝峠（1,023）以南にあり、一部石狩山地の十勝岳（2,077）、トムラウシ山（2,141）、石狩岳（1,962）周辺に分布している。標高は $H_3 \sim H_4$ であるが、 $H_3$ が大部分を占め、傾斜は、日高山脈のものは $S_6$ が多く、石狩山地では $S_4 \sim S_5$ である。土壌生産力等級は $P_5$ である。占有面積で最大は、大樹町（52%）、中札内町、新得町（13%）、帯広市（10%）の順で、他は3%以下である。

未区分は、河川・湖沼と市街地であり、前者で最も広いのは上士幌町の糖平湖、然別湖の計10 $\text{Km}^2$ で、次いで豊頃町の長節沼、湧洞沼、大津川、大勝川の計8 $\text{Km}^2$ が大きく、他は2 $\text{Km}^2$ 以下である。

佐々木 龍 男（北海道農業試験場）



## B. 統 計 の 部







1. 土地利用現況

1-1 市町村別土地利用現況面積

地名	市町村	農地									草地				
		田			畑						農地計	利用草地			未利用草地
		普通田	特殊田	計	普通畑	牧草畑	樹園地			永年牧草地		自然草地	計		
							果樹園	桑の園	その他						
十勝地域	帯広市	1	—	1	150	39	0	—	0	190	1	3	4	13	
	音更町	20	—	20	139	37	0	—	0	196	3	4	7	61	
	士幌町	0	—	0	84	26	0	—	0	110	1	3	4	36	
	上士幌町	—	—	—	35	41	—	—	—	76	2	2	4	40	
	鹿追町	—	—	—	61	33	0	—	0	94	0	2	2	35	
	新得町	3	—	3	22	19	0	—	0	44	1	1	2	8	
	清水町	3	—	3	76	43	0	—	0	122	1	3	4	7	
	芽室町	1	—	1	154	24	0	—	0	179	1	3	4	20	
	中札内村	—	—	—	19	5	—	—	—	24	0	0	0	5	
	更別村	—	—	—	59	31	—	—	—	90	1	1	2	22	
	忠類村	—	—	—	15	20	—	—	—	35	2	2	4	15	
	大樹町	—	—	—	38	56	—	—	—	94	1	4	5	35	
	広尾町	—	—	—	9	32	0	—	0	41	4	2	6	7	
	幕別町	5	—	5	105	24	0	—	0	134	1	3	4	21	
	池田町	18	—	18	45	14	0	—	0	77	1	4	5	10	
	豊頃町	2	—	2	44	35	0	—	0	81	6	6	12	36	
	本別町	1	—	1	65	36	0	—	0	102	3	4	17	6	
	足寄町	0	—	0	36	47	0	—	0	83	7	10	17	34	
	陸別町	—	—	—	7	24	—	—	—	31	6	4	10	20	
	浦幌町	0	—	0	49	34	0	—	0	83	3	5	8	20	
地域計	54	—	54	1,212	620	0	—	0	1,886	45	66	111	456		

- 注 1. 合計は、全国都道府県市区町村別面積調（昭48年建設省国土地理院）による。なお境界未定地あり。  
 2. 農地は、北海道農業基本調査（昭和48年版）による。3. 草地は、利用草地については、北海道未利用草地（原野）は、1970年世界農林業センサス北海道統計書（林業編）による。（たけのこ）  
 4. 林地は、1970年世界農林業センサス北海道統計書（林業編）による。（除地、更新困難地）  
 6. その他は、合計から51～5の面積を差引いた残りの面積による。

(単位  $Km^2$ )

地 草 地 計	林 地											宅 地	そ の 他	合 計
	人 工 林			天 然 林			未 立 木 地			除 地	林 地			
	針 葉 樹	広 葉 樹	計	針 葉 樹	広 葉 樹	計	採 草 放 牧 地 に 利 用 さ れ て い る 土 地	そ の 他	計					
17	31	0	31	34	182	216	1	6	7	30	284	18	109	618
68	22	2	24	—	106	106	0	4	4	6	140	8	55	467
43	21	0	21	1	52	53	1	1	2	4	80	2	24	259
44	38	1	39	315	134	449	15	14	29	31	548	2	26	696
37	21	1	22	105	74	179	2	12	14	6	221	1	44	397
5	79	1	80	426	331	757	1	32	33	94	964	2	48	1,063
11	46	1	47	—	113	113	6	26	32	19	211	3	55	402
24	34	0	34	13	155	168	1	13	14	19	235	3	72	513
5	20	0	20	28	123	151	0	4	4	34	209	1	53	292
24	21	1	22	—	14	14	2	3	5	1	42	1	18	175
17	24	0	24	—	43	43	1	1	2	1	70	1	14	137
40	62	2	64	137	360	497	10	14	24	32	617	2	63	816
13	52	1	53	3	391	394	4	31	35	7	489	1	65	609
25	32	0	32	—	67	67	—	4	4	7	110	2	68	339
10	31	1	32	—	207	207	3	1	4	—	243	2	40	372
48	55	1	56	14	244	258	7	3	10	6	330	2	77	538
13	36	0	36	24	169	191	2	7	9	3	239	2	39	395
56	116	2	118	420	519	939	38	39	77	69	1,203	2	57	1,401
36	62	1	63	170	263	433	—	9	9	5	510	1	36	614
33	89	4	93	73	375	448	1	8	9	29	579	21	12	728
569	892	19	911	1,768	5,920	5,683	95	232	327	403	7,324	77	975	10,831

ついては、昭和47年度北海道市町村勢要覧による。  
 道農業基本調査(昭和48年版)による。(ただし、永年牧草地には1年間利用しなかったものを含む)  
 し、採草放牧地に利用されている草地(野草地)を除く。)含む。) 5. 宅地は、固定資産の価格等概要調査(昭和48年度)による。

1-2 D.I.D おおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳

(単位  $\text{km}^2$ )

区分 市	市街地の内訳									市街地外の内訳						合計		
	商業区	工業区			住宅区	その他				市街地計	農地	草地	林地	宅地	公共用地		その他	計
		重工業地	軽工業地	計		漁業区	運輸区	公共区	計									
帯広市	2	—	6	6	22	—	1	3	4	34	190	17	284	93		548	618	

- 注1. 合計面積、市街地外の農地、草地、林地の面積は、1-1土地利用現況面積市町村別内訳による。
2. 市街地計は、都市計画区域の市街化区域面積である。
3. 市街地の商業区、工業区的面積は、都市計画区域の用途地域別面積による。  
 商業区…近隣商業地域、商業地域の合計面積  
 工業区…工業専用地域、工業地域、準工業地域の合計面積  
 (軽工業地)
4. 住宅区、その他(運輸区、公共区)については、市の資料により推定したものである。

## 2. 自然的土地条件

### 2-1 傾斜区分別面積市町村別内訳

(単位  $\text{Km}^2$ )

傾斜区分 市町村	S <sub>1</sub> 0°	S <sub>2</sub> 3°	S <sub>3</sub> 8°	S <sub>4</sub> 15°	S <sub>5</sub> 20°	S <sub>6</sub> 30°	S <sub>7</sub> 40°	未 区 分	計
	3°	8°	15°	20°	30°	40°	以 上		
帯広市	376	16	11	40	45	115	15	—	618
市部計	376	16	11	40	45	115	15	—	618
音更町	355	62	50	—	—	—	—	—	467
士幌町	205	21	31	—	2	—	—	—	259
上士幌町	170	84	169	38	177	48	—	10	696
鹿追町	172	39	80	12	82	10	—	2	397
新得町	173	188	144	59	425	73	—	1	1,063
清水町	219	55	18	24	63	22	1	—	402
芽室町	277	73	11	10	56	80	6	—	513
中札内村	111	2	5	19	20	95	40	—	292
更別村	167	2	3	3	—	—	—	—	175
忠類村	73	48	16	—	—	—	—	—	137
大樹町	267	93	51	35	99	79	190	2	816
広尾町	183	16	12	56	122	210	10	—	609
幕別町	287	38	14	—	—	—	—	—	339
池田町	106	60	206	—	—	—	—	—	372
豊頃町	216	190	124	—	—	—	—	8	538
本別町	139	25	166	23	42	—	—	—	395
足寄町	165	222	526	189	280	17	—	2	1,401
陸別町	59	142	322	73	18	—	—	—	614
浦幌町	135	110	248	119	114	—	—	2	728
郡部計	3,476	1,470	2,196	660	1,500	634	247	27	10,213
十勝地域計	3,852	1,486	2,207	700	1,545	749	262	27	10,831

2-2 標高区分別面積市町村別内訳

(単位  $Km^2$ )

市町村	標高区分									未区分	計
	0m 100m	100m 200m	200m 400m	400m 600m	600m 800m	800m 1000m	1000m 1,500m	1,500m 以上			
帯広市	111	195	111	50	40	36	58	17	—	618	
市部計	111	195	111	50	40	36	58	17	—	618	
音更町	131	255	81	—	—	—	—	—	—	467	
士幌町	2	80	161	13	1	1	1	—	—	259	
上士幌町	—	—	151	83	145	142	149	16	10	696	
鹿追町	—	37	155	45	43	55	58	2	2	397	
新得町	—	26	169	202	241	214	164	46	1	1,063	
清水町	16	147	108	40	42	19	28	2	—	402	
芽室町	94	187	80	42	36	32	37	5	—	513	
中札内村	—	42	85	32	39	28	53	13	—	292	
更別村	—	108	64	3	—	—	—	—	—	175	
忠類村	62	58	17	—	—	—	—	—	—	137	
大樹村	230	134	135	104	89	53	66	3	2	816	
広尾町	137	114	142	93	60	42	21	—	—	609	
幕別町	131	203	5	—	—	—	—	—	—	339	
池田町	153	181	38	—	—	—	—	—	—	372	
豊頃町	398	103	29	—	—	—	—	—	8	538	
本別町	71	151	156	16	1	—	—	—	—	395	
足寄町	8	109	539	386	183	104	69	1	2	1,401	
陸別町	—	5	290	242	42	19	16	—	—	614	
浦幌町	253	221	213	38	1	—	—	—	2	728	
郡部計	1,686	2,161	2,168	1,339	923	709	662	88	27	10,213	
十勝地域計	1,797	2,356	2,729	1,389	963	745	720	105	27	10,831	



2-3 地形区分別面積市町村別内訳

市町村 地形区分	山地・火山地					丘陵地		
	大起伏	中起伏	小起伏	山麓地	計	大起伏	小起伏	計
帯広市	159	32	66	—	257	—	—	—
市部計	159	32	66	—	257	—	—	—
音更町	—	—	—	—	—	84	—	84
士幌町	—	3	11	41	55	29	—	29
上士幌町	94	348	45	57	544	4	—	4
鹿追町	20	124	36	29	209	—	—	—
新得町	70	415	402	11	898	—	9	9
清水町	50	53	7	47	157	—	3	3
芽室町	126	13	20	17	176	—	5	5
中札内村	142	13	28	—	183	—	—	—
更別村	—	—	6	—	6	1	—	1
忠類村	—	—	—	—	—	51	5	56
大樹町	229	79	64	10	382	79	15	94
広尾町	156	93	147	—	396	14	3	17
幕別町	—	—	—	—	—	15	—	15
池田町	—	—	—	—	—	185	—	185
豊頃町	—	—	—	—	—	154	37	191
本別町	—	—	77	—	77	116	—	116
足寄町	44	215	370	13	642	298	5	303
陸別町	—	37	65	—	102	414	—	414
浦幌町	—	—	242	18	260	240	18	258
郡部計	931	1,393	1,520	243	4,087	1,684	100	1,784
十勝地域計	1,090	1,425	1,586	243	4,344	1,684	100	1,784



(単位 Km<sup>2</sup>)

台地・段丘				低地				未区分	計
砂礫	口一△	岩石	計	扇状地性	三角洲性	自然堤防砂州	計		
—	263	—	263	98	—	—	98	—	618
—	263	—	263	98	—	—	98	—	618
3	314	—	317	66	—	—	66	—	467
53	99	—	152	23	—	—	23	—	259
27	101	—	128	10	—	—	10	10	696
50	124	—	174	12	—	—	12	2	397
19	112	—	131	24	—	—	24	1	1,063
35	162	—	197	45	—	—	45	—	402
21	246	—	267	65	—	—	65	—	513
—	88	—	88	21	—	—	21	—	292
—	168	—	168	—	—	—	—	—	175
—	70	—	70	10	1	—	11	—	137
112	174	—	286	38	14	—	52	2	816
159	7	—	166	30	—	—	30	—	609
—	251	—	251	73	—	—	73	—	339
—	106	—	106	81	—	—	81	—	372
—	194	—	194	127	16	2	145	8	538
120	33	—	153	49	—	—	49	—	395
403	24	—	427	27	—	—	27	2	1,401
96	—	—	96	2	—	—	2	—	614
29	65	—	94	80	34	—	114	2	728
1,127	2,338	—	3,465	783	65	2	850	27	10,213
1,127	2,601	—	3,728	881	65	2	948	27	10,831



(単位 ㎡)

山 性 岩 石								合 計	深 成 岩 類				変 成 岩 類			湖・沼		合 計	備 考
軽石流	火山	凝灰岩質	火山砕砕岩	流紋岩質	安山岩質	玄武岩質	輝緑岩質		斑 岩	花崗岩質	はんれい	蛇紋岩質	ホルン	結晶片岩	片麻岩質	合 計	湖・沼		
堆積物	砕屑物	岩	礫灰	岩	岩	岩	岩	岩	岩	岩	岩	フェルス	質	岩	岩	その他			
—	—	—	—	—	—	—	—	256.5	—	18.5	99.5	—	—	—	—	9.3	618		
—	—	—	—	—	—	—	—	256.5	—	185	99.5	—	—	—	—	9.3	618		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	467		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	259		
—	—	—	—	33.9	—	3.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	696	熱別湖2 糠平湖8	
13.0	26.1	14.4	—	—	42.5	226.4	—	78.2	491.2	—	4.1	—	—	—	2.7	10	696		
23.7	62.0	19.4	—	—	—	—	—	—	282.4	—	17.0	—	—	—	—	—	397	* 2	
392.9	—	—	—	—	128.6	4.2	21	65.4	—	47.8	—	—	47.8	9.6	10.6	—	1,063	若松湖1	
3.6	—	—	—	—	—	—	—	—	22.47	—	78.0	14.5	—	—	—	13.3	402		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	21.85	—	55.9	15.9	—	—	—	34.9	513		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	89.6	—	19.9	8.8	—	—	—	9.3	73.5	292	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	151.0	—	—	—	—	—	—	—	175		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.2	65.7	—	—	—	—	—	—	137		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.5	69.2	—	—	3.6	—	—	—	816	生花苗湖	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	11.6	—	62.7	12.8	—	—	—	1.83	609	ホロカヤシノウ キモントウ沼	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	172.4	—	—	—	—	—	—	—	339		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	68.1	—	—	—	—	—	—	—	372		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	6.4	36.1	—	—	—	—	—	—	538	大津川1 十勝川2	
1.6	—	28.0	—	—	—	—	—	—	94.0	—	—	—	—	—	—	—	395	長巻沼1 湧原沼4	
98.0	—	176.3	4.2	99.3	351.0	—	4.2	738.2	—	—	—	—	—	—	—	—	1,401	活込野水池 オーネー湖2	
20.9	—	19.0	—	—	207.6	31.9	76.1	355.5	—	—	—	—	—	—	—	—	614		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.6	—	—	—	—	—	—	—	728	十勝川2	
5537	88.1	2637	529	141.8	9552	36.1	1727	4237.4	—	3220	520	0.7	3747	2684	106	47.1	326.1	27	10213
5537	88.1	2637	529	141.8	9552	36.1	1727	4493.9	—	3405	151.5	0.7	4927	2777	106	47.1	353.4	27	10831

(単位 ㎡)

ボトノル	ボトノル	ボトノル	ボトノル	赤黄色土		暗赤色土		褐色低地土		灰色低地土		灰色台地土		グライ土		グライ台地土		段状土		畑	
				計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
1.80	1.80																				
1.80	1.80																				
1.11.0																					
2.28	0.6																				
3.59	1.12	3.59	233.0																		
1.697	186.1	788.4	1149.2																		
1.697	186.1	851.4	1167.2																		

### 3. 土地利用可能性分級

#### 3-1 土地利用可能性分級別面積市町村別内訳

(単位 ㎡)

類地 市町村	1 類地	2 類地	3 類地	4 類地	5 類地	6 類地	7 類地	未区分	合計
帯広市	0	48.49	3130.6	67.73	25.86	115.30	39.74	7.82	618.00
市部計	0	48.49	3130.6	67.73	25.86	115.30	39.74	7.82	618.00
音更町	0	35.46	419.12	0	0	12.42	0	0	467.00
士幌町	0	22.08	217.55	12.78	0.40	6.19	0	0	259.00
上士幌町	0	21.65	266.42	92.66	123.54	168.42	13.31	10.00	696.00
鹿追町	0	14.64	2198.1	46.43	48.58	63.80	1.74	2.00	397.00
新得町	1.93	25.51	276.26	301.69	211.92	197.27	47.42	1.00	1063.00
清水町	0	34.69	209.70	66.20	36.90	43.67	10.84	0	402.00
芽室町	0	16.39	330.71	53.64	25.64	79.32	7.30	0	513.00
中札内町	0	11.20	90.20	34.18	14.45	92.58	49.39	0	292.00
更別町	0	6.59	165.11	3.30	0	0	0	0	175.00
忠類町	0	34.73	101.88	0	0	0.39	0	0	137.00
大樹町	0	174.72	208.44	123.99	62.50	47.25	197.10	2.00	816.00
広尾町	0.80	118.34	84.46	171.64	138.14	92.74	2.88	0	609.00
幕別町	0	38.66	289.90	0	0	10.44	0	0	339.00
池田町	0	34.07	304.40	16.68	0	16.85	0	0	372.00
豊頃町	0	151.48	336.87	0.86	0	40.79	0	8.00	538.00
本別町	0.22	27.78	281.08	67.18	0	18.74	0	0	395.00
足寄町	2.28	79.63	702.00	387.19	138.50	83.62	5.78	2.00	1401.00
陸別町	2.47	300.4	456.44	88.03	31.01	6.01	0	0	614.00
浦幌町	0	98.54	366.90	236.86	5.44	18.26	0	2.00	728.00
郡部計	7.70	976.20	5327.25	1703.1	837.02	998.76	335.76	27.00	10199.00
十勝地域計	7.70	1024.69	5640.31	1771.04	862.88	1114.06	375.50	34.82	10831.00

### 3-2 土地利用可能性分級と自然条件の関連

#### 3-2-1 土地利用可能性分級と地形区分との関連

(単位  $\text{km}^2$ )

土地利用可能性分級 地形区分	1 類地	2 類地	3 類地	4 類地	5 類地	6 類地	7 類地	8 類地 (未区分地)	合計	備考
山地・火山地	1.01	104.19	864.39	1,295.53	805.78	867.28	367.82	—	4,306.00	
丘陵地	—	283.17	1,248.81	249.83	—	8.72	1.29	—	1,791.82	
台地・段立	7.09	516.81	3,024.41	1,932.6	10.26	234.3	1.31	—	3,776.57	
低地	—	120.28	567.84	10.68	0.80	222.19	—	—	921.79	
未区分地	—	—	—	—	—	—	—	—	27.00	
合計	8.10	1,024.45	5,705.45	1,749.30	816.84	1,121.62	370.42	34.82	10,831.00	

#### 3-2-2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連

(単位  $\text{km}^2$ )

土地利用可能性分級 地形区分	1 類地	2 類地	3 類地	4 類地	5 類地	6 類地	7 類地	8 類地 (未区分地)	合計	備考
0°~3°(S <sub>1</sub> )	7.70	534.24	3,004.34	110.39	535.4	263.20	2.87	34.82	4,011.10	
3°~8°(S <sub>2</sub> )	—	490.45	780.89	98.33	541.8	50.92	43.4	—	1,479.11	
8°~15°(S <sub>3</sub> )	—	—	1,855.08	333.5	154.95	124.62	4.41	—	2,172.41	
15°~30°(S <sub>4</sub> )	—	—	—	1,528.97	325.36	256.83	433.7	—	2,154.53	
30°~40°(S <sub>5</sub> )	—	—	—	—	274.85	418.49	46.90	—	740.24	
40° (S <sub>6</sub> )	—	—	—	—	—	—	273.61	—	273.61	
合計	7.70	1,024.69	5,640.31	1,771.04	862.88	1,114.06	375.50	34.82	10,831.00	

#### 3-2-3 土地利用可能性分級と標高区分との関連

(単位  $\text{km}^2$ )

土地利用可能性分級 地形区分	1 類地	2 類地	3 類地	4 類地	5 類地	6 類地	7 類地	8 類地 (未区分地)	合計	備考
低暖地帯 (H <sub>1</sub> ) 0 ~ 400m	7.70	986.50	4,711.56	828.89	456.7	258.95	—	34.82	6,874.09	
山間地帯 (H <sub>2</sub> ) 400m~800m	—	38.19	928.75	942.15	307.22	89.95	82.85	—	2,389.11	
高冷地帯 (H <sub>3</sub> ) 800m~1,500m	—	—	—	—	509.99	765.16	176.50	—	1,451.65	
生産限界外地帯 1,500m~ (H <sub>4</sub> )	—	—	—	—	—	—	116.15	—	116.15	
合計	7.70	1,024.69	5,640.31	1,771.04	862.88	1,114.06	375.50	34.82	10,831.00	

3-2-4 土地利用可能性分級と土壤生産力可能性との関連

(単位 Km<sup>2</sup>)

土地利用可能性分級 土壤生産力可能性	1 類 地	2 類 地	3 類 地	4 類 地	5 類 地	6 類 地	7 類 地	8 類 地 (未区分地)	合 計	備 考
はなはだ良い (P <sub>1</sub> )	7.70	45.24	185.16	12.17	4.15	—	0.48	—	254.90	
やや良い (P <sub>2</sub> )	—	979.45	1,968.53	1,398.51	679.23	80.43	128.1	—	5,118.96	
やや劣る (P <sub>3</sub> )	—	—	3,486.62	226.92	69.20	1.81	75.5	—	3,792.10	
劣る (P <sub>4</sub> )	—	—	—	133.44	110.30	414.10	17.16	—	675.00	
はなはだ劣る (P <sub>5</sub> )	—	—	—	—	—	617.72	337.50	—	955.22	
未区分地	—	—	—	—	—	—	—	34.82	34.82	
合 計	7.70	1,024.69	5,640.31	1,771.04	862.88	1,114.06	375.50	34.82	10,831.00	

### 3-3 土地利用可能性分級別主要地域の概要

土地利用可能性分級		1 類 地	2 類 地	3 類 地	4 類 地	5 類 地	6 類 地	7 類 地	8 類 地 (未区分地)	備 考
地域の概要			大樹豊頃地域	芽室地域	足寄地域	新得地域	上士幌地域	大樹西部地域		
地 域 名										
傾 斜 (谷 密 度)		S <sub>1</sub> (0~3°) (0~7)	S <sub>1</sub> (0~3)	S <sub>2</sub> (15~30°) (4~10)	S <sub>3</sub> (15~30°) (4~14)	S <sub>4</sub> (15~30°) (6~13)	S <sub>5</sub> (40°~)	S <sub>6</sub> (8~14)		
標 高 (植 栽 限 界)		0~40m	20~100m	40~400m	400~1000m	800~1400m	800~1200m			
表 層 地 質 岩 石 の 種 類 岩 石 の か た さ 時 代		砂・礫・粘土 第四紀	火山灰・ローム 第四紀	泥岩・礫岩・砂岩 輝緑岩 2~3 第三紀~白亜紀	粘板岩・砂岩・結晶 片岩・霽結炭灰岩 2~3 第四紀~白亜紀	粘板岩・泥岩・安山 岩・火山砕屑物 2~3 第四紀~白亜紀	ホルンフェルス片麻 岩・花崗岩・結晶片 岩 3 白亜紀			
土 地	農 田									
	土 壤 統 群 生 産 力 可 能 性 等 級									
	地 畑		褐色低地土壌 II	くろぼく正壤 淡色くろぼく土壌 淡色ローム質 II						
草 地										
土 壤 統 群 生 産 力 可 能 性 等 級										
環 境	土 壤 統 群 地 位 級				褐色森林土壌 II 型 II	褐色森林土壌 II 型 II	暗色系褐色森林土壌 ポドゾル化土壌 IV	岩厚土壌・岩石地 V		
水 利 用	地 表 水 地 下 水		○	○	○	○	×	×		
気 候 区 分			大平洋沿岸	大平洋平野	大平洋平野	大平洋平野	大平洋平野	大平洋平野		
面 積	土地利用可能性分級別面積									
	道 内 合 計 (A)		1,024.69	5,640.31	1,771.04	862.88	1,114.06	375.50		
	当該地域の類地別面積		174.72	330.71	387.17	211.92	168.42	197.10		
道 内 合 計 (B/A)		17.1	5.9	21.9	24.6	15.1	52.5			

3-4 土地利用可能性別主要地域の概要

市町村名	類地区分 および包含される示性式		面積 ha		土 地 利 用 の 現 況														備 考	
					水 田		畑						草 地		林 地					空地・その他
					土利占有率	平均収獲量率	普通畑		樹園地		土利占有率	草地の種類および平均収獲量率	人工林		天然林		土利占有率			
帯広市	1 類地		-															（国営清川地区直轄明渠排水事業地域）  飛行場      市街地		
	2 類地	112 121 122 221	48									C	カラマツ115		D	広葉樹90				
	3 類地	113 123 132 133 212 232	313			A	牧草75 ビート150 大豆110 小豆110					D	カラマツ110 トマツ 90		C	広葉樹75	D			
	4 類地	142 143 242	68												A	広葉樹60				
	5 類地	234 252 254 342	26												A	広葉樹40				
	6 類地	352 354 115 125 245 255 355	115												A	広葉樹30 針葉樹40				
	7 類地	262 265 365 445 455	40												A	広葉樹15				
	8 類地		8																	
市町村計		618																		
音更町	1 類地		-															（国営ヘギノ川地区直轄明渠排水事業地域、国営西士幌地区総合農地開発事業地域）  原野、ゴルフ場		
	2 類地	112 122	36			B	ビート150						D	カラマツ120		D	広葉樹90			
	3 類地	113 123 132 133	419	D	水稲 95	B	牧草74 ビート133 大豆100 小豆110			D	牧草 69	D	カラマツ105		D	広葉樹75	(D)			
	4 類地		-																	
	5 類地		-																	
	6 類地	115	12																	
	7 類地		-																	
	8 類地		-																	
市町村計		467																		

注 1. (D)は5割未満であるが、特記すべきものを示した。  
 2. 8類地は市街地(帯広市のみ)・湖沼・河川である。  
 3. 水稲収獲量率は北海道農務部資料及び農林統計(昭41-45)により概定した。  
 4. 牧草は農林統計(昭46-48)を基準として、関係機関と協議し、概定した。  
 5. その他の畑は農林統計(昭35-44)を基準とし、関係機関と協議し概定した。



市町村名	類地区区分 類地区分および 含まれる示性式		土地利用の現況													備考		
			水田		畑					草地		林地					空地・ その他	
					普通畑	樹園地	土	草地の種類	人工林	天然林	土	地	土	地	土			地
面積 ㎡	土利 占有率	地用 占有率	平均収 穫量率	土利 占有率	地用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土利 占有率	地用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	利 占有率	および平均 収穫量率	土利 占有率	地用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土利 占有率	地用 占有率		
士 幌 町	1 類地		—														(国営西 田地区 農地開 発事業 地域・ 国営 西士幌 地区 総合農 地開 発事業 地域)	
	2 類地	112 122	22			B	ビート 150					D	カラマツ 120	D	広葉樹 90			
	3 類地	113 123 132 133 222 231 232	218			A	牧草 75 ビート 150 大豆 100 菜豆 95 大豆 105			(D)	牧草 75	D	カラマツ 105	D	広葉樹 75	(D)		原野
	4 類地	114 213 223 233	13			D	ビート 115							A	広葉樹 60			
	5 類地	224	0															
	6 類地	115 245 345	6															
	7 類地		—															
	8 類地		—															
市町村計		259																
上 士 幌 町	1 類地		—														(国営西 士幌 地区 総合農 地開 発事業 地域)	
	2 類地	112 211 221	22			D	牧草 72 ビート 115					A	カラマツ 110					
	3 類地	113 123 133 212 222 231 232	266			C	菜豆 90					B	カラマツ 100 トドマン 90	C	針葉樹 85 広葉樹 80	(D)		原野
	4 類地	114 213 233 233 242 243	93			D	牧草 70 ビート 100			D	牧草 70	B	トドマン 80	C	針葉樹 70 広葉樹 65	D		原野
	5 類地	214 224 234 251 252 312 313 322 323 332 333 342 343	124											A	針葉樹 55			
	6 類地	314 324 334 344 352 353 354 115 215 245 315 325 335 345 355	168											A	針葉樹 40			
	7 類地	444 445 451 454 455 465	13															
	8 類地		10															然別湖 糖平湖
市町村計		696																

市町村名	類地区分および包含される示性式		面積		土地利用の現況														備考
					水田		畑				草地		林地				空地・その他		
					土地利用占有率	平均収穫量率	普通畑		樹園地		土地利用占有率	草地の種類および平均収穫量率	人工林		天然林		土地利用占有率		
							土地利用占有率	主要作物および平均収穫量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収穫量率			土地利用占有率	主要樹種および平均収穫量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収穫量率			
鹿追町	1 類地		—															( 国営ヘギノ川地区直轄明渠排水事業地域、国営御影地区畑地帯総合土地改良パイロット事業地域 )	
	2 類地	112 211 221	15			C	牧草 80 ビート 135 菜豆 90			D	カラマツ 120								
	3 類地	113 123 133 212 222 231 232	220			B	牧草 75 ビート 135 菜豆 90		(D)	牧草 70	D	カラマツ 105 トドマツ 90	D	広葉樹 80			D		自衛隊用地
	4 類地	213 223 241 242	47										C	広葉樹 65 針葉樹 70			C		自衛隊用地
	5 類地	332 343	49										A	針葉樹 55					
	6 類地	314 324 334 344 354 245 335 345	64										A	針葉樹 40 広葉樹 30					
	7 類地		—																
	8 類地		2																
市町村計			397															然別湖	
新得町	1 類地	111	2															ゴルフ場	
	2 類地	112 122 211 221	26	D	水稻 80	D	牧草 75 ビート 115 小豆 90			D	カラマツ 110								
	3 類地	113 123 132 133 212 222 232	276	(D)	水稻 80	D	牧草 74 ビート 115 菜豆 90 小豆 90		D	牧草 70	D	カラマツ 100 トドマツ 90	C	広葉樹 80 針葉樹 85		(D)			
	4 類地	141 142 144 223 241 242	302								D	トドマツ 80	B	広葉樹 65 針葉樹 70					
	5 類地	153 214 224 234 244 254 312 322 322 342 343	212										A	針葉樹 55 広葉樹 45					
	6 類地	314 324 334 344 352 354 115 145 235 245 335 345 355	197										A	針葉樹 40					
	7 類地	425 435 445 455	47																
	8 類地		1																岩松湖
市町村計			1,063																

市町村名	類地区区分 および包含される示性式		土地利用の現況													備考	
			水田		畑				草地		林地				空地・その他		
					普通畑		樹園地		土地利用 占有率	草地の種類 および平均 収穫量率	人工林		天然林				
					土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率			土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率			
清水町	1 類地		-													(国宮祥栄地区直轄明渠排水事業地域、国宮御影地区畑地改良ペイロット事業地域)	
	2 類地	112 121 1.22 2.21	35			C	牧草 82 ビート 135 菜豆 105				D	カラマツ 115 トトマツ 100					
	3 類地	113 123 1.33 2.22 2.32	210	(D)	水稻 80	A	牧草 78 ビート 115 菜豆 95 小豆 95				D	カラマツ 100 トトマツ 90	D	広葉樹 75			
	4 類地	114 213 2.23 2.41 2.42	66							D	牧草 75			C	広葉樹 60		
	5 類地	1.53 2.24 2.44 3.31 3.32 3.42	37											A	広葉樹 40		
	6 類地	3.64 3.44 3.52 3.54 1.15 3.55	43											A	広葉樹 30		
	7 類地	3.62 3.64 3.65 4.55 4.64	11														
	8 類地		-														
市町村計		402															
芽室町	1 類地															(国宮祥栄地区直轄明渠排水事業地域、国宮御影地区直轄明渠排水事業地域)	
	2 類地	112 122	16			B	牧草 75 ビート 150 大豆 110				D	カラマツ 115					
	3 類地	1.13 1.23 1.32 1.33 2.22 2.32	331			B	牧草 75 ビート 150 菜豆 105 大豆 110 小豆 110			(D)	牧草 75	D	トトマツ 90 カラマツ 100	D	広葉樹 75		(D)
	4 類地	1.14 1.42 2.23 2.42	54											C	広葉樹 60		
	5 類地	2.44 2.52 2.54 3.42	26											A	広葉樹 40 針葉樹 50		
	6 類地	3.52 3.54 1.15 1.55 2.35 2.45 3.45 3.55	79											A	広葉樹 30		
	7 類地	4.55	7														
	8 類地		-														
市町村計		513														ゴルフ場 原野	

市町 村名	類地区分 面積		土 地 利 用 の 現 況														備 考	
			水 田			畑				草 地		林 地				空地・その他		
			土利 占有率	地用 占有率	平均収 穫量率	普通畑		樹園地		土利 占有率	草地の種類 および平均 収穫量率	人工林		天然林		土利 占有率		
						土利 占有率	主 要 作 物 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土利 占有率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率			土利 占有率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土利 占有率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率			
中 札 内 町	1 類地		-															
	2 類地	112 122	11				C	牧草 46 大豆 120				D	カラマツ 115					
	3 類地	113 123 132 133	90				B	牧草 76 大豆 135 小豆 95 大豆 115				D	カラマツ 100 トマツ 90	C	広葉樹 75			
	4 類地	142 242	34											A	広葉樹 60			
	5 類地	252 254 312	15												A	広葉樹 40		
	6 類地	354 115 245 255 355	93				D	牧草 70							B	広葉樹 30		
	7 類地	365 415 445 465	49												A	広葉樹 15		
	8 類地		-															
市 町 村 計		292																
更 別 町	1 類地		7															
	2 類地	112 122	165				A	牧草 76 大豆 115 小豆 95 大豆 100			D	牧草 68	C	カラマツ 120	D	広葉樹 90		
	3 類地	113 123 132 133	3										D	カラマツ 105 トマツ 90	D	広葉樹 75		
	4 類地	142 242	-															
	5 類地		-															
	6 類地		-															
	7 類地		-															
	8 類地		-															
市 町 村 計		175																

(国宮更別地区直轄明渠排水事業地域、国宮更別中央地区直轄明渠排水事業地域、国宮更別地区総合農地開発事業地域)

市町村名	類地区区分		土地利用の現況														備考
			水田		畑				草地		林地				空地・その他		
					普通畑	樹園地		土地	草地の種類	人工林		天然林		土地	その他		
類地区分および包含される示性式	面積	土地利用占有率	平均収穫量率	土地利用占有率	主要作物および平均収穫量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収穫量率	土地利用占有率	および平均収穫量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収穫量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収穫量率	土地利用占有率	土地利用占有率		
忠類村	1類地		-														
	2類地	1.12 1.22	35		D	牧草 75				C	カラマツ 110	D	広葉樹 85				
	3類地	1.13 1.23 1.32	102		B	牧草 75 ビート 100 豆 95 菜豆 85				D	カラマツ 100 トトマツ 90	D	広葉樹 70	(D)	原野		
	4類地		-														
	5類地	1.15	0														
	6類地		-														
	7類地		-														
	8類地		-														
市町村計		137															
大樹町	1類地		-													(国営豊似地区農地開発事業地域)	
	2類地	1.12 1.22	175		C	牧草 75 ビート 135 菜豆 95				D	カラマツ 110			D	原野		
	3類地	1.13 1.23 1.32 1.33	208		C	牧草 72 ビート 115 菜豆 90				D	カラマツ 100 トトマツ 90	C	広葉樹 70	D	原野		
	4類地	1.24 1.42 1.43 2.42	124							D	トトマツ 80	C	広葉樹 60				
	5類地	1.52 2.44 2.52 2.54	63									A	広葉樹 40				
	6類地	3.52 3.54 1.15 2.45 2.55 3.55	47									A	広葉樹 30				
	7類地	2.62 2.63 2.64 2.65 3.62 3.63 3.64 2.65 4.13	197									A	広葉樹 10				
	8類地		2													生花苗沼、ホロカヤントウキモントウ沼	
市町村計		816															

市町村名	類地区分		土地利用の現況											備考		
			水田		畑				草地		林地				空地・その他	
					普通畑	樹園地	土地利用	草地の種類	人工林	天然林						
面積	土地利用 占有率	平均収 穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率			
廣尾町	1類地	1.11	1												(国営豊似地区農地開発事業地域)	
	2類地	1.12 1.22	118		C	牧草 80 ビート 115				D	カラマツ 110	D	広葉樹 70			
	3類地	1.13 1.23 1.32 1.33 2.32	84		C	牧草 75 ビート 115				D	カラマツ 100 トドマツ 90	C	広葉樹 60			
	4類地	1.42 2.42	172		D	牧草 90 ビート 100		(D)	牧草 73	D	トドマツ 80	A	広葉樹 40			
	5類地	1.52 2.44 2.52 2.54 3.43	138									A	広葉樹 30			
	6類地	3.52 3.54 1.15 1.35 2.45 2.55 3.45 3.55	93					(D)	牧草 73							
	7類地	3.65	3													
	8類地		-													
市町村計		609														
幕別町	1類地		-											(国営更別中央地区直轄明渠排水事業地域、国営古舞地区農地開発事業地域)		
	2類地	1.12 1.22	39		D	牧草 90 ビート 150			D	牧草 90	D	カラマツ 120	D		広葉樹 90	
	3類地	1.13 1.23 1.32 1.33	290		C	牧草 85 ビート 135 大豆 100 小豆 100 豆 105		(D)	牧草 85	C	カラマツ 105	D	広葉樹 80		D	
	4類地		-													
	5類地		-													
	6類地	1.15	10													
	7類地		-													
	8類地		-													
市町村計		339														

市町村名	類地区区分 （地区区分および包含される示性式）		土地利用の現況														備考		
			水田			畑				草地			林地					空地・その他	
			面積	土地利用占有率	平均収量率	普通畑	樹園地	土地利用占有率	主要作物および平均収量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収量率	土地利用占有率	草地の種類	人工林	天然林	土地利用占有率		主要樹種および平均収量率	土地利用占有率
池田町	1類地		—																
	2類地	112 122	34	C	水稲 100								D	カラマツ 120	D	広葉樹 90			
	3類地	113 123 132 133	304	D	水稲 100	D	牧草 90 ビート 135 小豆 115 大豆 115			D	牧草 90	D	カラマツ 105	B	広葉樹 80				
	4類地	124 134	17																
	5類地		—																
	6類地	115	17																
	7類地		—																
	8類地		—																
市町村計		372																	
豊頃町	1類地		—																（国営新川地区直轄排水事業地域）  ゴルフ場原野  長筥湖 十勝川 湧洞沼 大津川
	2類地	112 121 122	151		D	牧草 75 ビート 150			(D)	牧草 75	D	カラマツ 110	C	広葉樹 85					
	3類地	113 123 132 133	337		C	牧草 72 ビート 115 大豆 100 小豆 95 大豆 105			(D)	牧草 70	D	カラマツ 100 トマツ 90	B	広葉樹 70					
	4類地	134	1													(D)			
	5類地		—																
	6類地	115	41		B	牧草 70 大豆 115													
	7類地		—																
	8類地		8																
市町村計		538																	

市町村名	類地区分 類地区および含まれる示性式		面積 ㎡		土地利用の現況														備考	
					水田			畑				草地		林地			空地・その他			
					土利占有率	地用率	平均収獲量率	普通畑		樹園地		土利占有率	草地の種類	人工林		天然林		土利占有率		
								土利占有率	地用率	主要作物および平均収獲量率	土利占有率			地用率	主要樹種および平均収獲量率	土利占有率	地用率			主要樹種および平均収獲量率
本別町	1類地	111	0																	
	2類地	112 122	28									B	カラマツ120							
	3類地	113 123 132 133 232	281				B	牧草 70 ト豆 150 大豆 115 小豆 115			D	牧草 80	D	カラマツ105 トドマツ 90	C	広葉樹 80 針葉樹 85				
	4類地	114 124 142 143 242	67											B	針葉樹 70 広葉樹 65					
	5類地		-																	
	6類地	115 135 145 245	19																	
	7類地		-																	
	8類地		-																	
市町村計		395																		
足寄町	1類地	111	2																	
	2類地	112 121 122	80				D	牧草 75			D	牧草 74	D	カラマツ110	D	広葉樹 95				
	3類地	113 123 121 132 133 212 222 231 232	702				D	牧草 71 ト豆 130 大豆 100 小豆 100			D	牧草 71	D	カラマツ100 トドマツ 90	B	広葉樹 80 針葉樹 85				
	4類地	114 124 134 144 142 143 144 213 223 233 241 242 243	387								(D)	牧草 70			B	針葉樹 70			(D)	原野
	5類地	214 224 234 244 252 253 312 313 322 323 331 332 333 242	138												A	針葉樹 55				
	6類地	343 314 324 334 344 354 115 125 135 235 245 355	84												A	針葉樹 40				
	7類地	365	6																	
	8類地		2																	
市町村計		1041																		活込貯水池 オンネットー湖



市町村名	地区区分		土地利用の現況												備考		
			水田		畑				草地		林地					空地・その他	
			土地利用率	平均収穫量率	普通畑	樹園地	土地利用占有率	草地の種類	人工林	天然林	土地利用占有率	主要樹種および平均収穫量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収穫量率			
陸別町	1 類地	111	3														
	2 類地	121 112 122 211 221	30								B	カラマツ110	D	広葉樹 95			
	3 類地	113 123 131 132 133 212 222 231 232	456		D	牧草 72 ビート 100			(D)	牧草 68	D	トマツ 90 カラマツ 100	B	広葉樹 80 針葉樹 85			
	4 類地	114 124 142 143 213 223 233 242 243	88		(D)	ビート 90							B	針葉樹 70 広葉樹 65			
	5 類地	332 333 342 343	31										A	針葉樹 55			
	6 類地	334 344 225	6														
	7 類地		—														
	8 類地		—														
市町村計		614															
浦幌町	1 類地		—														
	2 類地	112 122	99		D	牧草 75 ビート 170					D	カラマツ120	D	広葉樹 90			
	3 類地	113 123 132 133	367		D	ビート 135 菜豆 110 小豆 100			(D)	牧草 72	D	トマツ 90 カラマツ 105	C	広葉樹 80			
	4 類地	114 124 141 142 143 144 242 243	237										C	針葉樹 70 広葉樹 65			
	5 類地	244	5														
	6 類地	115 125 135	18										A	針葉樹 40			
	7 類地		—														
	8 類地		2														
市町村計		728															

